



6月末の「よりよい学校にするためのアンケート（保護者アンケート）」にご協力いただき、ありがとうございました。今回は、アンケート結果の中から全体的な傾向と分析・対策、ご家庭との連携が必要な点についてお伝えします。そして、今一度、ご家庭での時間の使い方についての確認をお願いします。



1、第1回よりよい学校にするための保護者アンケート結果

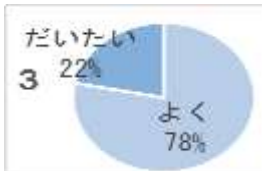
全体的傾向：○肯定的な意見が85%以上の項目は、全23項目中19項目でした。

学校の教育活動に対して、概ね保護者の方から良い評価をいただいていると考えられます。

(1) 肯定的な回答の意見が多く、昨年度よりも「よく」の割合が増えた項目

(肯定的な意見(「よくできている」「だいたいできている」の合計))

③ 学校は児童が主体的に考え、グループやクラスで話し合うことで自分の考えを広げたり深めたりする授業に取り組んでいると思いますか



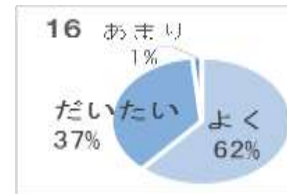
昨年度7月との比較
R3.6月:
「よく」5%増◎

⑮ 学校は児童一人一人の良さを認め、夢や目標の実現に向けて努力しようとする気持ちを育てていると思いますか



昨年度7月との比較
R3.6月:
「よく」9%増◎

⑯ 学校は、児童が地域や人との関わる楽しさを実感できるように地域の人・もの・ことを活用した体験型学習の充実に取り組んでいると思いますか



昨年度7月との比較
R3.7月:
「よく」13%増◎

(1) の分析:

上記の3項目は、昨年度7月結果よりも肯定的意見が増えた項目の一部です。これは、新型コロナ感染拡大防止策を取りながら、授業の工夫(ワークシートや意見の可視化)や児童の自己決定の場(実行委員会形式による行事計画・運営等)や地域人材活用授業(2年生町探検や3・4年巖木川水生生物調査、5年福祉講座等)を大切にしてきたことを評価していただいた結果と考えます。

この他にも項目⑰「保護者や地域との連携に努め、親身になって迅速に対応できている」に肯定的な意見は100%、「よく」は昨年度7月より5%増)、項目④「図書館を活用した授業や日常的な読書活動を推進している」に肯定的な意見は98%、「よく」は昨年度7月より9%増)等があり、昨年度7月結果より肯定的な項目が増えたのは全23項目中17項目ありました。

(2) 「よくあてはまる」という回答が低い項目

⑳ ご家庭でテレビやゲーム、携帯電話を使う時間について約束を決めていますか



昨年度7月との比較
R3.6月:
「よく」3%減△
「だいたい」1%増◎
肯定的意見2%減△

㉑ お子さんは、進んで学習したり、次の日の準備をしたりしていますか



昨年度7月との比較
R3.6月:
「よく」1%増◎
「だいたい」5%減△
肯定的意見4%減△

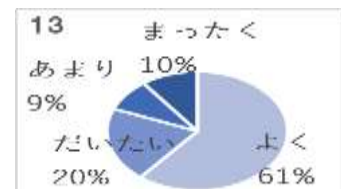
㉒ お子さんは家で読書をしていますか



昨年度7月との比較
R3.6月:
「よく」14%減△
「だいたい」3%減△
肯定的意見17%減△

(3) 児童対象アンケート結果

13、家でゲームやインターネットを使う時間の約束を守っていますか。



⑤ 学校や家で進んで本を読んでいますか。



右ページ(2)・(3)の分析と対策～学校の取り組み～生活時間への指導・宿題の工夫～

保護者対象・児童対象アンケート結果共に、テレビやゲームの視聴時間の約束ができていない、なかなか読書時間が取れていない現状がうかがえます。児童の生活時間調査では、特に休日のテレビ・ゲーム・インターネット使用時間が長くなっているようです。昨年度もこの項目は「よくあてはまる」の回答が低い結果でしたので、継続的な対策が必要です。

学校の取り組みとして、まずは9月初めに生活リズムを整えること、学級活動等の時間に夏休みのモードから学校の生活リズムに早く戻して学習や体育大会の練習に集中して取り組むことができるように指導していきます。また、「生活ふりかえりシート」を使って「早寝早起き朝ご飯」の生活時間見直しや有意義な時間の使い方について考えさせる機会を設ける、宿題として本や辞書を使っての調べ学習を出す、宿題プラス読書で目標の家庭学習時間を達成させるように声かけをする等の取り組みをしていきます。生活時間を考えていくことは計画性や自制心を育むことへつながることを話していきます。ご家庭でもぜひ、テレビやゲームの視聴時間の約束決めと時々再確認の声かけをお願いします。

2 学力向上に向けての分析と取り組み

5月27日の全校一斉の小学6年生対象「令和3年度全国学力・学習状況調査」にて国語と算数の2教科と質問紙調査(アンケート)を実施しました。

本校6年児童の結果としては、国語の平均正答率は県を4%、全国を4.3%上回り、算数は県を2%、全国を3.2%下回りました。

国語・算数とも全問題に対して無回答率0%、国語では意見文で自分の主張が明確に伝わるように文章全体の構成を考えたり、目的や意図に応じて理由と自分の考えが伝わるように百字以内で書いたりすることができています。しかし、問題文の条件に合わせて説明文の文章と図を結び付けて書く問題や中心となる語や文を見つけて要約文を書く問題の正答率が低い結果となりました。

算数では、基礎的な問題は100%の正答率(例:午後1時35分から50分後の時刻を書く問題や棒グラフから数量を読みとる問題)でしたが、問題の意味を捉えて式を立てたり、直角三角形の底辺を正しく把握して面積を正しく求めたり、複数の帯グラフから知りたいことに応じて適切な帯グラフを選んだりする問題の正答率が低い結果となりました。

職員研修で結果分析と対策を共通理解し、全校で授業改善へ生かして学力向上へつなげていきます。

12月には4・5・6年生対象の佐賀県学習調査を実施予定です(4・5年:国語・算数、6年:国語・算数・理科・社会) (裏面に、本校6年児童の正答率が低かった問題を掲載しています。ぜひご一読ください。)

◆国語科における授業改善

①文章と絵や図、表、グラフとの照合

- ◎問われていることや条件へのマーキング
- ◎挿絵や図、表等の言葉と対応する文を線でつなぐ

②要約する力をつける指導

- ◎要約文のモデル文の提示、モデル文を基に書く
- ◎大事なことを短く話す力・簡潔に書く力
(5W1Hの意識、日記や体験後の感想等)

③文章構成と内容を捉える力

- ◎段落の役割、要旨、事実と筆者の意見を区別する
- ◎教科書に関連した本を紹介して読書の幅を広げる
- ◎学年に応じて、観察文、報告文、推薦文等の文章の特徴、様式の指導

④習った漢字を日常的に使う力、文の意味に沿って漢字を書く力、同音異義語の理解

◆算数科における授業改善

①問題文の意味のイメージ化

- ◎問題文の数字、立式の手がかりになる算数用語、単位、問われていることへのマーキング
- ◎問題文の数値の順番を入れ替えると意味が変わることの経験(イメージ図→立式へ)
△8人で4Lを分ける問題で $8 \div 4 = 2$ の誤答が多い結果。
- ◎解き終わったら計算を見直す習慣をつける

②図形の提示の工夫や公式の理解を確実に

- ◎底辺が上や横にある三角形の提示→△底辺を正しく把握できていない。△三角形の面積公式=底辺×高さ÷2の÷2をし忘れの誤答

③解法や理由を説明する活動の充実

- ◎複数資料(4つの帯グラフ、表、棒グラフを対応)から読み取れることの説明
- ◎提示された条件を満たしていない誤答を提示し、なぜ誤答なのかを説明させる活動に
- ◎週末課題の工夫